



2021年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年10月15日

上場会社名 株式会社EduLab 上場取引所 東
 コード番号 4427 URL <https://www.edulab-inc.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 高村 淳一
 問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役副社長兼CFO (氏名) 関 伸彦 TEL 03 (6625) 7710
 四半期報告書提出予定日 2021年10月15日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年9月期第3四半期の連結業績（2020年10月1日～2021年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年9月期第3四半期	7,230	39.1	△575	—	235	395.8	△874	—
2020年9月期第3四半期	5,197	25.2	183	△59.6	47	△78.2	23	△55.1

(注) 包括利益 2021年9月期第3四半期 △881百万円 (—%) 2020年9月期第3四半期 △10百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年9月期第3四半期	△88.55	—
2020年9月期第3四半期	2.68	2.47

(注) 2021年9月期第3四半期の「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年9月期第3四半期	22,082	11,511	51.3
2020年9月期	16,009	6,748	41.3

(参考) 自己資本 2021年9月期第3四半期 11,320百万円 2020年9月期 6,617百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年9月期	—	0.00	—	30.00	30.00
2021年9月期	—	0.00	—	—	—
2021年9月期 (予想)	—	—	—	—	—

- (注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
 2. 2020年9月期末配当金の内訳 普通配当 一円一銭 記念配当 30円00銭
 3. 当社は定款において第2四半期末日及び期末日を配当基準日と定めておりますが、現時点では期末における配当予想額は未定であります。

3. 2021年9月期の連結業績予想（2020年10月1日～2021年9月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,000	49.1	2,200	177.5	1,850	190.1	1,250	189.9	126.18

（注） 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 2021年9月期の1株当たり当期純利益は、2020年10月16日で払込が完了した公募による新株式発行数（461,600株）及び第三者割当増資（並行第三者割当増資）による新株式発行数（198,100株）等を含めた期中平均発行済株式数により算出しております。

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社、除外 一社

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年9月期3Q	10,011,070株	2020年9月期	9,089,370株
② 期末自己株式数	2021年9月期3Q	6,954株	2020年9月期	15,775株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年9月期3Q	9,871,754株	2020年9月期3Q	8,880,056株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しており、前年同期比については、前年同期の数値を変更後の報告セグメントの区分に組み替えて算出しております。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間の当社グループの経営成績は、売上高7,230,565千円（前年同期比39.1%増）、営業損失575,820千円（前年同期は営業利益183,601千円）、経常利益235,572千円（前年同期比395.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純損失874,181千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益23,791千円）となりました。

当第3四半期連結累計期間においては、テスト等ライセンス事業、教育プラットフォーム事業、テストセンター事業、テスト運営・受託事業で引き続き売上が順調に拡大しました。AI事業は、手書き文字認識やAIレコメンドエンジン関連ソフトウェアに伴うライセンス収入等が順調に拡大しましたが、自動採点関連の委託業務の減収の影響等により売上は前年同期比でマイナスとなりました。一方、人員増に伴う人件費の増加、ソフトウェア開発投資に伴う減価償却費の増加等により、営業損失となりました。また、東京証券取引所市場第一部への市場変更に伴う費用等の他、投資先について投資有価証券評価損32,794千円の営業外費用が発生しましたが、事業損失引当金の戻入れがあったことなどにより、経常利益は増益となりました。また、テストセンター事業及びテスト運営・受託事業において、それぞれ、451,770千円及び241,417千円の減損損失が発生した他、中国自習室事業撤退に伴う事業整理損として45,952千円の減損損失および319,899千円の投資有価証券評価損の発生に伴う特別損失により、親会社株主に帰属する四半期純損失となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

① テスト等ライセンス事業

テスト等ライセンス事業においては、公益財団法人日本英語検定協会（以下、「英検協会」）に提供している4-5級スピーキングテストに伴うライセンス収入が受験者数の減少の影響を受けて減少しましたが、企業・学校向け英語能力判定テストの「CASEC」の実施が順調に進み、当該セグメントの売上高は989,588千円（前年同期比13.4%増）、セグメント利益は416,723千円（前年同期比58.5%増）となりました。

② 教育プラットフォーム事業

教育プラットフォーム事業においては、前期に買収した株式会社教育デジタルソリューションズにおけるメディア・広告収入などが収益に貢献しましたが、利益率の高い多教科プラットフォーム収入が前年同期比で減少しました。その結果、当該セグメントの売上高は1,764,475千円（前年同期比9.2%増）、セグメント利益は781,084千円（前年同期比10.5%減）となりました。

③ テストセンター事業

テストセンター事業においては、売上は順調に拡大しておりますが、減価償却費、システム保守費、採用増に伴い人件費等が増加し、また、原価として事業損失引当金繰入額が発生し、その結果、当該セグメントの売上高は1,739,301千円（前年同期比99.4%増）、セグメント損失は622,422千円（前年同期はセグメント損失204,628千円）となりました。

④ AI事業

AI事業においては、手書き文字認識「DEEP READ」やAIレコメンドエンジン「CAERA」関連ソフトウェア利用に伴うライセンス収入等が伸び悩み、自動採点関連の委託業務の減収の影響及びソフトウェア開発投資に伴う減価償却費の増加等により、当該セグメントの売上高は424,161千円（前年同期比3.3%減）、セグメント損失は281,997千円（前年同期はセグメント利益69,698千円）となりました。

⑤ テスト運営・受託事業

テスト運営・受託事業においては、令和3年度全国学力・学習状況調査（小学校第6学年の児童および中学校第3学年の生徒を対象とした調査）業務や埼玉県の学力・学習状況調査業務等が順調に推移したことにより、当セグメントの売上高は2,489,106千円（前年同期比62.8%増）、セグメント利益は142,278千円（前年同期比190.0%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて5,446,154千円増加し、15,680,206千円となりました。これは、公募及

び第三者割当増資（並行第三者割当増資）による新株式の発行などによる現金及び預金4,701,401千円、商品527,064千円の増加、商品527,064円、売掛金732,033千円の減少などによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて628,965千円増加し、6,395,341千円となりました。これは、英検協会からのCBT資産買取りなどによるソフトウェア534,386千円、ソフトウェア仮勘定293,193千円の増加などによります。

繰延資産は、前連結会計年度末に比べ1,930千円減少し、6,769千円となりました。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて6,073,190千円増加し、22,082,316千円となりました。

（負債）

流動負債は、前連結会計年度末に比べて1,298,426千円増加し、6,053,083千円となりました。これは、1年内返済予定の長期借入金が1,200,000千円、短期借入金が484,072千円それぞれ増加したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて11,624千円増加し、4,517,688千円となりました。これは、社債が94,308千円減少し、長期借入金が82,861千円、事業整理損失引当金が48,255千円増加したことなどによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて1,310,050千円増加し、10,570,772千円となりました。

（純資産）

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて4,763,140千円増加し、11,511,544千円となりました。これは公募及び第三者割当増資（並行第三者割当増資）による新株式の発行により資本金及び資本剰余金がそれぞれ2,827,773千円増加したことなどによります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2020年11月6日の「2020年9月期 決算短信[日本基準]（連結）」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,524,054	12,225,455
売掛金	2,027,356	1,295,322
商品	70,000	597,065
仕掛品	148,114	218,843
その他	464,525	1,343,519
流動資産合計	10,234,051	15,680,206
固定資産		
有形固定資産	622,410	382,734
無形固定資産		
ソフトウェア	2,234,133	2,768,520
ソフトウェア仮勘定	470,419	763,612
その他	354,744	312,857
無形固定資産合計	3,059,296	3,844,990
投資その他の資産	2,084,668	2,167,616
固定資産合計	5,766,375	6,395,341
繰延資産	8,699	6,769
資産合計	16,009,126	22,082,316
負債の部		
流動負債		
買掛金	369,374	700,612
短期借入金	1,430,000	1,914,072
1年内償還予定の社債	330,008	130,008
1年内返済予定の長期借入金	502,852	1,702,852
未払法人税等	198,368	87,641
事業損失引当金	667,718	—
その他	1,256,335	1,517,897
流動負債合計	4,754,657	6,053,083
固定負債		
社債	396,884	302,576
長期借入金	3,930,722	4,013,583
事業整理損失引当金	—	48,255
その他	178,457	153,273
固定負債合計	4,506,063	4,517,688
負債合計	9,260,721	10,570,772
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,377,852	5,266,554
資本剰余金	2,696,782	5,618,716
利益剰余金	1,630,862	484,472
自己株式	△44,082	△19,506
株主資本合計	6,661,414	11,350,236
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△44,159	△29,260
その他の包括利益累計額合計	△44,159	△29,260
非支配株主持分	131,149	190,568
純資産合計	6,748,404	11,511,544
負債純資産合計	16,009,126	22,082,316

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)
売上高	5,197,743	7,230,565
売上原価	3,237,838	5,280,833
売上総利益	1,959,905	1,949,732
販売費及び一般管理費	1,776,303	2,525,552
営業利益又は営業損失(△)	183,601	△575,820
営業外収益		
受取利息	1,354	1,545
為替差益	9,354	53,819
事業損失引当金戻入額	—	1,078,235
その他	50,675	19,129
営業外収益合計	61,384	1,152,729
営業外費用		
支払利息	27,351	34,024
投資事業組合管理費	81,749	101,110
持分法による投資損失	—	8,175
投資有価証券評価損	28,338	59,452
市場変更費用	4,000	44,462
その他	56,035	94,110
営業外費用合計	197,474	341,336
経常利益	47,510	235,572
特別利益		
段階取得に係る差益	49,016	—
特別利益合計	49,016	—
特別損失		
減損損失	—	693,188
投資有価証券評価損	—	319,899
事業整理損	—	94,207
特別損失合計	—	1,107,295
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	96,527	△871,723
法人税等	83,765	32,290
四半期純利益又は四半期純損失(△)	12,761	△904,014
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△11,029	△29,832
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)	23,791	△874,181

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	12,761	△904,014
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△22,988	22,177
その他の包括利益合計	△22,988	22,177
四半期包括利益	△10,227	△881,837
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,194	△859,283
非支配株主に係る四半期包括利益	△11,422	△22,553

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

2020年10月16日で払込が完了した公募による新株式の発行461,600株及び第三者割当増資（並行第三者割当増資）による新株式の発行198,100株により、資本金が2,827,773千円、資本剰余金が2,827,773千円増加しております。

この増資等により、当第3四半期連結会計期間末において、資本金が5,266,554千円、資本剰余金が5,618,716千円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益または税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書において、追加情報に記載した新型コロナウイルス感染拡大の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

(売上高に関する事項)

当社は特別調査委員会を設置し、当社及び当社の連結子会社である株式会社教育測定研究所とその特定顧客との間の一部取引（以下、「テストセンター取引」）について、一連の経緯や価格の妥当性を踏まえて経済合理性の調査を実施している中で、会計監査人より、テストセンター取引とは関連性のない、株式会社教育測定研究所と関連会社である株式会社旺文社EduLab EDGe Schoolとの間の一部取引等（以下、「グループ会社間取引」）に関連して、売上の計上が実態を伴うものであるかについての懸念を指摘されました。

これを受け、当社は特別調査委員会による追加調査を実施しました。その後、会計監査人より、新たに、株式会社教育測定研究所の売上高の実在性及び期間帰属の根拠となる証憑の信頼性に疑義がある複数取引（以下、「業務提携先等との取引」）が判明した旨を指摘されたため、当社は特別調査委員会の調査範囲をさらに拡大し、特別調査委員会は業務提携先等との取引及び類似取引の有無についての調査を継続しております。

当社は中間報告書に基づきテストセンター取引及びグループ会社間取引についての会計処理の修正を行い、また、連結子会社の範囲を拡大し、業務提携先等との取引について売上高及び関連する勘定科目の会計処理を修正しました。

当社は、特別調査委員会の調査範囲を拡大し、売上高に関する事実関係、内部統制への影響及び他の財務数値への影響についての調査を継続中であります。

(四半期連結損益計算書関係)

(減損損失)

当第3四半期連結累計期間において、以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

(1) 減損損失を認識した資産グループの概要

用途	種類	場所	金額（千円）
テストセンター事業用資産	建物附属設備	東京都渋谷区他	93,956
	工具、器具及び備品		48,459
	ソフトウェア		241,750
	ソフトウェア仮勘定		67,604
テスト運営・受託事業用資産	ソフトウェア	東京都渋谷区他	161,647
	ソフトウェア仮勘定		79,770

上記のほか、連結子会社の中国自習室事業撤退に伴う減損損失（投資その他の資産等 45,952千円）を事業整理損に含めて計上しております。

(2) 減損損失の認識に至った経緯

「テストセンター事業」及び「テスト運営・受託事業」については、収益性の低下により共通費配賦後の営業損益が継続してマイナスであるため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

(3) 資産のグルーピングの方法

原則として、セグメントを基礎としてグルーピングを行っております。

(4) 回収可能価額の算定方法

回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを割り引いて算定しております。なお、「テスト運営・受託事業」については、将来キャッシュ・フローがマイナスであるため零として評価しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年10月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 2
	テスト等 ライセンス 事業	教育 プラット フォーム 事業	テスト センター 事業	AI事業	テスト運営 ・受託事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	872,734	1,615,961	824,480	356,050	1,528,517	5,197,743	—	5,197,743
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	47,652	82,500	—	130,152	△130,152	—
計	872,734	1,615,961	872,132	438,550	1,528,517	5,327,895	△130,152	5,197,743
セグメント利益又は 損失(△)	262,903	872,899	△204,628	69,698	49,059	1,049,932	△866,331	183,601

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当社は、2020年4月1日付で当社を株式交換完全親会社、株式会社教育デジタルソリューションズを株式交換完全子会社とする株式交換を行い、当第3四半期連結会計期間より、同社を連結の範囲に含めております。これにより、のれんを報告セグメントの「教育プラットフォーム事業」で110,205千円計上しております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自2020年10月1日至2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 2
	テスト等 ライセンス 事業	教育 プラット フォーム 事業	テスト センター 事業	AI事業	テスト運営 ・受託事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	989,588	1,764,475	1,685,981	301,414	2,489,106	7,230,565	—	7,230,565
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	53,320	122,747	—	176,067	△176,067	—
計	989,588	1,764,475	1,739,301	424,161	2,489,106	7,406,632	△176,067	7,230,565
セグメント利益又は 損失(△)	416,723	781,084	△622,422	△281,997	142,278	435,667	△1,011,487	△575,820

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの変更)

第1四半期連結会計期間より、当社グループ内の業績管理区分の見直しに伴い、報告セグメントを従来の「e-Testing/e-Learning事業」及び「テスト運営・受託事業」の2区分から、「テスト等ライセンス事業」、「教育プラットフォーム事業」、「テストセンター事業」、「AI事業」及び「テスト運営・受託事業」の5区分に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメント区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間に「テストセンター事業」セグメントにおいて451,770千円、「AI事業」セグメントにおいて45,952千円、「テスト運営・受託事業」セグメントにおいて241,417千円の減損損失を計上しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。